

じんけん くらしの扉

淡路市人教：No. 59

「つながりの場“おむすび”」

(特非)淡路島ファミリーサポートセンターまあるく 代表理事
関 美恵子

私たちが働く「まあるく」の法人事務所は、イオン淡路店店内アルクリオ3階にあります。事業内容は、障害福祉・介護保険を主としていますが、平成30年度に「淡路市子育て世代包括支援センター『おむすび』」を開設して以来、妊娠中や子育て中の方を対象とした相談業務も行っています。

相談業務を行う、通称「おむすび交流の場」では、乳児用体重計、授乳スペースを設けているほか、子育てに関する講座やイベントも行っています。また、離乳食や昼食を持参したママ友同士が時間を共有する場となるなど、多くの方がさまざまな目的で「おむすび交流の場」に訪れています。

今年1月末には、市内小児科の医師をお招きし、子育てに関する講座を開催しました。講座の中で、「25年前とは小児医療も、子育てを取り巻く環境も大きく変わった。」とのお話があり、「ひと昔前と違い今では予防接種の種類も増え、特にアレルギーに関しては注意が必要だ」ということを参加した親子と共に学びました。そのほかにも医師は、「妊娠の時期から関わって、新しく親になる方に、小児の医療のお話しをしたりできる場が必要で、フィンランドの「ネウボラ*」的な支援が実現できることが理想」とおっしゃっていました。「まあるく」では高齢者の方のお世話をする機会があるので、このような子育てに関する情報も祖父母世代に橋渡ししていけたらと思いました。

産前産後は、ホルモンバランスの崩れなどが原因で、孤独を感じたり、イライラしたりしがちです。子育ての疲れを少しでも軽減できればとスタッフ一同お待ちしておりますので、ぜひ「まあるく」へ

お立ち寄りください。



第14回 淡路市人権シネマの集い

令和2年2月15日(土)、サンシャインホールにおいて「第14回淡路市人権シネマの集い」を開催しました。今回上映したのは、今、若者を中心に人気の生田斗真が主演、そのほか桐谷健太、小池栄子らが出演する、「彼らが本気で編むときは、」



©2017「彼らが本気で編むときは、」製作委員会

この映画は、「LGBT」と「家族の在り方」をテーマとしたもので、2017年の公開当時、第67回ベルリン国際映画祭、第16回ニューヨーク・アジア映画祭などで、数々の賞を受賞。主演の生田斗真が女性への性別適合手術を受けたトランスジェンダー役を熱演し、大変話題となりました。上映は昼と夜との2回で、来場者は合計で229名。普段見慣れない男女の在り方や家族の在り方、そして、一味違った出演者の姿を、映画館並みの大スクリーンで目の当たりにしたご来場の方々からは、「とてもよかった」、「意外な結末だったが大変感動した」などのご感想をいただき、楽しいひとときとなりました。

※編集部注：「ネウボラ」⇒フィンランド語で「アドバイスする場所」という意味。妊娠期から子育て期にわたる切れ目のない支援をワンストップで行う制度と、そのための地域拠点そのものを指す。